
カーボンナノチューブの冒険

星井湾

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カーボンナノチューブの冒険

【Nコード】

N1659P

【作者名】

星井湾

【あらすじ】

ひとつの原子からみた世界。
思い切り力を抜いて書きました。もう少し長くやれそうな気がしましたが、概ね満足です。

僕のご主人が4ボルトの電圧をかけたとき、僕たち家族はちりぢりになってしまった。たった4ボルトの電圧でも、ね。僕たちは弱いんだ。本当は、0・4ボルトの電圧をかけるはずだったんだけど、そのときご主人はとても疲れていたみたい。4ボルトの電圧がかかるとすぐに、僕たちの周りはすごく熱くなって、そうするとあいつらがやってきて、僕の家族たちを次々に空中に連れ去ってしまったんだ。僕のところにもすぐに、二人組がやってきて、僕の両肩をぐつとつかんで、そいつらに空中に連れていかれた。地面から離れていくとき、僕のいた場所には、焦げカスになって残った家族と、パラジウムさんが点々と残っているのが見えた。パラジウムさんとはとてもめずらしくて、人間の世界ではとても値段が高いらしいんだ。僕はパラジウムさんに手を振ったけど、向こうは気がつかなかったみたい。

二人組の名前はオクスとジェン。始めはちよつと乱暴だったけど、一緒にいるうちにいい奴らだと思えるようになってきた。僕たち三人ははじめ、ご主人のいる部屋の中をぶかぶか浮かんでいたんだけど、そのうち窓から外に出て、大きな空をただようことになった。外の世界は初めてだったよ。ご主人のいる、大学っていう場所は、とても広くて、いろんな形の建物がならんでいた。

空を漂っている途中に、いろんな人に出会ったよ。その中でも、特にすごかったのは、僕と同じ見た目をしたおじいさんの話。おじいさんは、何万年か、もつと長い時間、地下深くで眠ってたんだって。その前は、植物の一部だったらしい。『恐竜』っていうものを見たことがあるって、自慢してた。おじいさんは最近、人間の手で地中から掘り出されたいらしい。そのあと、いろいろあったらしいけ

ど、最後には『エンジン』っていうところで燃やされて、今は空をただよってるんだって。燃やされたのは僕と同じですね、っていうたら、おじいさんはちよっとむっとした様子だったなあ。

そのあと、僕たちは風にながされて、ある田舎までやってきた。

オクスとジェンが、向こうに見える葉っぱのところまで行こう、面白いものが見れるぜ、といったから、僕たちはその葉っぱの中に入っていたんだ。おどろいたよ、葉っぱの中には工場あったんだ。たしか、『クロロプラスト』っていう名前の工場だった。『クロロプラスト』の中では、マグネシウムさんが中心になって、いろいろな人があわただしく働いていた。なんでも、この工場は、光を集めて、そのエネルギーで動いているらしい。そこで僕はマグネシウムさんに、ここに住まないか、ってきかれたんだ。そろそろ空を飛ぶのにも飽きてきていたし、オクスとジェンとはここでお別れして、僕は植物の一部になることにした。それに、そうすればもしかしたら、『恐竜』が見られるかもしれないと思ったからね。

僕にはあたらしい家族ができた。僕の最初の家族は『カーボンナノチューブ』。今度の家族は『グルコース』。なんだかちよっとむずかしいね。植物の中には、本当にいろんな種類の人がいて、おもしろかった。パラジウムさんはいなかったけど。そのあと僕は何ヶ月か、植物の中にいたんだけど、あるとき人間が、僕らの住む植物を刈り取って、どこか遠くへ運んで行ってしまったんだ。今度は家族とは一緒だったけど、僕たちがどこに連れて行かれるのか、不安でしやうがなかったよ。

僕たちが連れて行かれた先には、機械がたくさんおいてあった。僕が大学で見たどの機械よりも、ずっと大きくて、それがひっきりなしに動いていた。僕たちはそこで、砕かれたり、かきまわされたりして、最後には200 くらいの温度をかけられた。200 は

かなり熱かったけど、今度は燃やされずにすんだよ。それから、僕たちは透明なふくろに詰められて、またどこかに運ばれていったんだ。

着いた先はなんと、ご主人がいる大学だったんだ。これってすごい偶然だよ。僕も信じられなかった。今僕は、その大学の中にある、小さいコンビニみたいなのところに売られている。もしご主人がここに来たら、僕を買ってくれるかな。それもすごい偶然だね。まあいいや。こうやってパンになって、誰かに食べられるっていうだけでも、何かの自慢にはなりそうだもんね。

（後書き）

<補足>

カーボンナノチューブ・・・炭素からなる小さなチューブ
クロロプラスト・・・葉緑体
グルコース・・・ブドウ糖

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1659p/>

カーボンナノチューブの冒険

2010年12月10日17時32分発行